

変化の時代に、 行政を前に進める

大臣官房企画課サイバーセキュリティ・情報化推進室課長補佐
併任 秘書課働き方改革・業務見直し推進室

佐々 祐太 SASA Yuta

平成 28年 4月 総務省採用
同 行政管理局企画調整課
平成 29年 7月 内閣府地方創生推進事務局(地域再生担当)
令和 元年 7月 内閣官房情報通信技術(I T)総合戦略室主査
併任 総務省行政管理局
令和 3年 9月 デジタル庁デジタル社会共通機能グループ主査
令和 4年 7月 デジタル庁デジタル臨時行政調査会事務局参事官補佐
併任 デジタル庁国民向けサービスグループ
(デジタル田園都市国家構想担当)参事官補佐
令和 5年 7月 現職

総務省は、政策評価など、行政をよくする様々なツールを持っているけれども、これらは時代の変化に合わせてまだまだ「伸び代」があるのではないかと。既に確立したツールを使って行政をよくしていくよりも、ツールを育てながら行政をよくしていく方がやりがいがあるのではないかと—そうした「伸び代」に賭けてみようと考えて総務省の門を叩いてから10年弱が経とうとしています。

デジタル時代の行政をデザインする

「行政管理」というイメージが湧きづらいですが、人や組織を活かして役所を「役にたつ所」にすることだと考えています。そのためのツールとして、①よい人を採用して育て、適材適所に配置し、組織として成果を挙げられるようにする(人事行政・行政組織)、②そこで働く人がよい仕事をできるように仕事のやり方を見直す(業務改革)、③行政が目指すべき方向に着実に進んでいくための仕掛けを用意する(政策評価・統計)といったものがあります。

こうしたツールを使って社会の変化にどのように対応できるのか、私が現在携わっている行政のデジタル化を例に挙げます。①デジタル庁という新たな省庁ができたことが象徴的ですが、単に人を減らすのではなく、デジタルなど投資すべき分野に人的資

源の配分や投資を行う、②デジタルを前提に、既存の制度・ルール・慣習を変えることも含めて役所の仕事のやり方を見直す—こうしたことが求められると感じますし、③社会の変化の加速化に伴い、あるべき方向に向けた現在地を示して軌道修正につなげる「コンパス」としての政策評価や統計の役割は更に高まると感じています。

求めよ、さらば与えられん!

明治以来のアナログ前提の法令をデジタル前提に横断的に見直す、行政のデジタル化を支えるシステム基盤を作るなどなど…振り返れば、入省当時は想像もつかなかった様々な仕事をする機会を得てきました。求めさえすれば限りなく幅広いフィールドでチャレンジングな課題に挑める環境が総務省にはあると感じています。

デジタル化などの大きな変化に対応して行政のあるべきかたちを考え、よい行政サービスを提供できるようにしていくという、前例も唯一絶対の正解もない世界で、できない理由ではなくできる方法を追い求めていく—そのような前向きな思いを持った皆さんと一緒に仕事をできることを楽しみにしています。

国家行政のあるべき姿を模索する

皆さんにとって「行政」とはどのようなイメージでしょうか。おそらく様々な答えが返ってくると思いますが、私にとってのイメージは“暮らしと密接不可分なもの”です。その「行政」全体を見渡し、行政のあり方を考え、マネジメントする役割を担っているのが総務省です。激動する社会に合わせ行政も柔軟かつ的確な変化が求められる現代において、その役割の重要性はより一層高まっていると思います。

ありたい姿からのアプローチ

私は入省3年目の時に内閣人事局に出向し、国家公務員の人事行政や働く環境を整備する業務に携わりました。そして、同局に設けられた、希望者が参加できる担当横断の局内プロジェクトチームに参加し、「キャリアオーナーシップ」(以下「C/O」といいます。)について考える機会に恵まれました。C/Oとは、個人が自らのキャリアを主体的に考え、自律的に行動することを指しますが、“自らのキャリアを主体的に考える”ことは、その描いたキャリアを起点として、現在の仕事に対して自ら意義付けを行

い、納得感を得ることにもつながり、私たちにとってとても大切なことです。

プロジェクトチームでは、内閣人事局の職員へのアンケートを基にした分析を行いました。C/Oスコアが高い(C/Oを実践している)人は、そうでない人よりもエンゲージメントが高くなる傾向が見られました。公務員とC/Oはあまり馴染まないように感じるかもしれませんが、公務という世界においても、キャリアを主体的に考えている人の方がよいパフォーマンスを発揮していたということです。職員のエンゲージメントが高くなると組織のパフォーマンスが上がるため、行政の質の向上にもつながることが期待できます。つまり、職員がありたい姿を考えて行動すること、それを促進することは、より良い行政の実現への一つのアプローチ方法であると言えるのではないのでしょうか。

私は現在、公害等調整委員会事務局という総務省の外局で、人事行政とはまた異なる業務に携わっていますが、総務省には、所属にかかわらず「国家公務員の働き方」に関心の高い職員が多く、私自身も、職員一人ひとりがありたい姿を思い描き続けられる組織づくりに今後も貢献したいと思っています。

総務省の魅力とは

総務省ではその業務の性質上、俯瞰力と柔軟な思考力が求められます。それは簡単なことではないですが、周りの上司などと意見を交わしながら考える日々はとても充実したものです。また、私は総務省のミッションに加え、そこで働く「人」にも魅力を感じ、総務省の門を叩きました。もし総務省に興味を持っていただけたら、ぜひ色々な職員と話してみてください。きっと一緒に働いてみたいと思える職員に出会えるはずですよ。



年次休暇を活用して旅行へ。中尊寺にて。

より良い行政の実現と、 ありたい姿の追求

公害等調整委員会事務局
総務課企画法規係長

多田 雛子 TADA Hinako

平成 31年 4月 総務省採用
同 行政管理局管理官【特殊法人総括、独立行政法人制度総括】付
令和 2年 7月 同 大臣官房総務課(法令審査第一係)
併任 秘書課
令和 3年 7月 内閣官房内閣人事局(給与1担当)
令和 5年 7月 現職



デジタル規制改革推進のための法案の国会審議にて



プライベートのエジプト旅行にて